

神社祭礼

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45174

8. 神社祭礼

鏡 味 治 也

1. はじめに
2. 柳田の白山神社とその祭礼
3. 笹川の日枝神社とその祭礼
4. 石井の諏訪神社・市姫神社とその祭礼
5. おわりに

1. はじめに

今年度聞き取りを行った旧柳田村の対象地区（住所で言う字柳田、字笹川、字石井の各地区）は、奥能登の他の地区と同様、キリコを初めとしたにぎやかな出し物が出る神社祭礼を代々継承してきた。字柳田地区では行政区画で言う百万脇区に位置する白山神社が、字柳田地区の総社として信仰を集めてきた。字笹川地区では日枝神社が、字石井地区では諏訪神社が地区の中心的な神社となっている。以下ではその実施内容や運営方法を、主要な神社ごとに概観する。

2. 柳田の白山神社とその祭礼

2.1 神社の由緒来歴

字柳田地区の中央を東西に流れる町野川の両岸に開けた小さな盆地の中央に、南から突き出したような丘陵部の突端、その山裾に家々が並ぶ百万脇集落の背後に白山神社は位置する。本殿はその丘陵部を石段で上ったところにあり、石段の下に拝殿が、いずれも東側を向いて建てられている。拝殿の南脇には、白山神社の別当寺であった真言宗安養寺が建てられていた。

『柳田村史』によれば、そもそもは安養寺の守護神として、仏法護持の神祠として安置され、やがて近在の総社として栄えることになったのだろうという。安養寺がおそらく白山泰澄系の修験道場としてまず開設されたのは、白山神社棟札写に記載された年号を信じれば10世紀初頭頃のことかという（『柳田村史』1975:1217）。

字柳田地区内には、百万脇区に位置する白山神社のほか、野田区の日枝（ひのえだ）神社、日詰脇区の火宮（ひのみや）神社、重年区の日宗屋（ひそうや）神社、百万脇区にもうひとつある金峰（きんぶん）神社があるほか、盆地北側の丘陵を上った台地にある金山区にも夜塚（よろづか）神社と呼ばれる神祠がある。このうちの日枝神社、火宮神社、日宗屋神社、金峰神社の4社が明治40（1907）年に白山神社に合併され、昭和3（1928）年には白山神社が郷社として認可



写真1 白山神社正面、秋祭礼のキリコが並ぶ



写真2 白山神社拝殿、5台の神輿が安置されている

され、文字どおり字柳田地区の総社となった。ただし合併された4社の建物と境内は今もそのままに残されている。

2.2 官司

字柳田地区を含む旧柳田村内には合わせて38の神社が存在するが、かつては在宅の官司を置く神社はひとつもなかった。それが上記の字柳田地区4社の白山神社への合併を機に、それまで旧能都町山田区で官司をしていた堀内家を白山神社の在宅官司として招いた。以後堀内家は代々白山神社の脇に居を構えて本務官司を務めるとともに、隣接する旧柳田村内の十朗原区西谷と東谷、五十里区、下当目区、寺分区、五郎佐エ門区、神和住区、中斉区の各社、さらに白山神社の移る前から官司を務めていた旧能都町鮭尾区、宮地区、曾又区の各社で兼務官司を務めており、その氏子は合わせて500軒ほどに及ぶ。年末になると堀内官司はこれら氏子宅一軒々々を訪れ、「つもり祓い」と称して神棚にお参りしお札を配って回っているという。

2.3 当組制

白山神社の行事運営は、毎年回り持ちで受け渡される当組（とうぐみ）が担う。白山神社の春祭りや秋祭りにはそれぞれ別の当組が立てられる。これはそれぞれ20軒を単位とし、現在の白山神社の氏子およそ180軒（2013年時点）のなかで20軒づつを機械的にくくり、年ごとに受け渡ししていく。組の中で当親（とうおや）を決め、それが祭りの実施主体である氏子の最高責任者となる。

当組の受け渡しは「当渡し」と呼ばれる。白山神社の春祭りや秋祭りの当渡しは、それぞれの祭り修了後すぐに行われる。神輿を宮に納めて祭り修了の儀式をおこなったあと、当年度の当組各人と次年度の当組各人が向かい合って座り、お下がりの昆布とするめをつまみお神酒を杯で飲んで直礼（なおり）を行ったあと、引き継ぎをして役目を引き渡す。これで当組の1年の役目は終わることになるが、秋祭りの当組は次年度の祭礼の際にお旅所で焚かれる松明の準備と世話

をする役目ももう一年続く。

合併前の白山神社、日枝神社、火宮神社、日宗屋神社、金峰神社のそれぞれの氏子だった家々のあいだでも、今でも毎年当組を決め、年ごとに受け渡している。日枝神社の氏子は野田区と金山区の住民で構成される。火宮神社の氏子は日詰脇区に、日宗屋神社の氏子は重年区にかたまっている。白山神社のももとの氏子は、百万脇区のうち神社前の10軒ほどと、川向こうの日詰脇区に含まれる3軒ほどにとどまる。金峰神社の氏子は、百万脇区の南半分と米山区の住民で構成される。ひと組の軒数は、4軒（火宮神社氏子）や6軒（日宗屋神社氏子）から15軒（日枝神社氏子）までさまざま、当親を決める組もあれば、親を決めず組の皆で役割を分担する組もある。

この旧社単位の氏子の当組の当渡しは、新年の始めに白山神社で行われる。日枝神社の当渡しは1月4日に（「4日渡（よっかど）」と呼ばれる）、白山神社のそれは1月5日（「5日渡」）、日宗屋神社と火宮神社のそれは1月6日（「6日渡」）、金峰神社のそれは1月7日（「7日渡」）に、それぞれ行われる。

2.4 定期祭礼

白山神社で行われる定期祭礼には以下のものがある。

まず1月1日には新年祭が、1月15日には左義長が行われる。初詣は隣の安養寺で除夜の鐘をついたあと、そのまま白山神社に回ってお詣りする人が多かった。左義長では古いお札を持ち寄り焼いている。

4月17日は春祭りで、神輿渡御（みこしとぎょ）が行われる。この式次第は秋祭りの二日目の本祭りと同じ手順なので、詳しくは秋祭りの項で述べる。

9月16・17日の秋祭りが白山神社の例祭で、神社の「誕生日」ともいうべき日であり、一年のうちもっともにぎわう。16日は「宵宮（よいみや）」で、夜10時に始まり、白山神社に合併された5社の氏子連中がいくつもキリコを出し、神輿を先導して神輿渡御を行う。17日は「本祭り」で、午後2時から神輿渡御を行い、午後4時頃には宮に戻って神事を終了する。この過程は後段で詳述する。

11月23日には新嘗祭が行われ、氏子の居住する6区の区長と氏子総代が宮司とともに神事を挙行する。これが白山神社で毎年行われる年内最後の定期祭礼となる。

以上の定期祭礼を実施するための神社経費は現在各戸あたり年間7,500円で、これを前期4,000円、後期3,500円に分けて6人の区長が各区の住民から集め、宮総代に渡す。

白山神社に合併された日枝神社、火宮神社、日宗屋神社、金峰神社は、いまでも社屋は残っているものの、神輿はすでに白山神社に移されて保管され、祭礼が行われることはない。わずかに春祭りや秋祭りの際に境内の清掃が行われる程度である。

宇柳田地区にある神社の中で、白山神社に合併されなかった金山の夜塚神社では、今でも10月

9日に定期祭礼が行われ、白山神社の堀内宮司が宮司を務め、金山区の住民が参拝をする。

さらに神社祭礼でなく在所の祭りとして、重年区では2月の第一日曜日(『柳田村史』1975:1132では「2月6日」と記載)に「十七夜」という祭りが行われてきた。これはもともと住民の家々が持ち回りで会場となり、玄関を入った土間(ニワと呼ばれる)で行われたが、現在では重年集会所で行われる。別名「がんのこ(カニの子)祭り」とも言い、カニの子が田の畦に穴をあけて水漏れさせ稲に害を及ぼしたりするのをこらしめ、五穀豊穡を願う祭りで、稲の穂に見立てた松の枝を担いで踊り、カニの子に扮した子供たちがそれにぶら下がるが、最後には手を離す。またさらに別名で「蕪祭り」と呼ぶのは、かつて飢饉の際にカブを食べて飢えをしのいだ故事から、この祭りのごちそうにカブを使った料理を出したのが由来である。類似の祭りは金山区でも行われていたようだ(ただし金山では「十八夜(じゅうはっちや)」と呼ばれていたという)。

2.5 秋祭りの実施過程

ここでは「柳田大祭」とも喧伝される白山神社の秋祭りの2015年度の実施過程を、観察と聞き取りから概観する。

まず祭りに先立ち、当年度の祭りの運行を確認し内容を取り決める「一統寄合(いっとうよりあい)」が8月後半に行われる。2015年度は8月23日(日)午後には白山神社脇の柳田公民館分館で催された。出席者は白山神社に合併された5社の各氏子総代、金山区を含めた6区の区長、白山神社宮司ほかで、氏子総代会会長の百万脇氏子総代が挨拶をし、柳田地区区長会長の百万脇区長が議長を務めた。

議題はまず秋季例大祭の日程を確認し、各地区(合併した5社のそれぞれの氏子組)が1本ずつ計5本のキリコを出すよう要請された。キリコは神輿を先導する提灯が大型化したものと言え、奥能登を代表する民俗風習のひとつである。白山神社の秋祭りでも、5社の氏子組だけでなく、かつては資産家(オヤッサマと呼ばれる)が個人でキリコを出すこともあり、多いときには30本出たこともあったという。大きいもの(高さ7間半)から小さいもの(3間)まであり、今でも和蠟燭を用いて灯りをともし、台車はついておらず人が担ぐ。近年は過疎化が進み人手不足で、各組1本ずつ出すのがやっとなのである。何台出すかも含めて、キリコを出すかどうかは氏子組が決めるので(忌中の家があったりすると出せない)、その確認と要請がこの寄合であらためてなされたわけである。

つづいて次週8月30日夜の祭礼委員会開催を確認し、今年度の当親、祭礼委員、キリコ責任者への出席要請がなされた。また近年キリコ担ぎの人数応援をしてもらっている金沢星稷大学への依頼人数が百人と確認された。また白山神社の神輿担ぎは大当番の百万脇区の当親が担当することを確認した。その他、お旅所への参道の提灯飾りの手配や、仮設トイレの設置依頼、お旅所の除草作業の手配などのほか、懸案の5つの神輿を保管する倉の建設計画の現状と工期の見直し

話し合われた。

柳田地区内5社の白山神社への合併後、5社の神輿は白山神社拝殿に並べて保管されているが、拝殿は本来神輿を収めておく場所ではないので、倉の建設話が2年前にもちあがり、建設費用は「割等割り（かっとうわり）」として氏子各戸から10万円ずつ集めることを目指して、積み立てを進めている。倉は隣接する安養寺の敷地に建てられる予定で、その実施設計を平成28（2016）年度に行うことまでが取り決められた。安養寺は長く白山神社の別当寺として神社に隣接し、神社の世話役を務めていたが、明治以降の神仏分離で神社から切り離され、檀家は白山神社前の6軒しかなく、先代住職の後継者が早く亡くなり、その弟が婿に行った旧柳田村内の寺分区の平等寺に合併されて、近年建物も取り壊された。その土地が白山神社に譲渡され、神輿倉の建設予定地となっているのである。

8月30日（日）夜開催の祭礼委員会は見学できなかったが、祭りの運行手順が話し合わせ確認された。

祭り前日の9月15日には、今年度の当組20軒で神社境内の清掃や幟の準備をするいっぽう、前年度当組が神輿の渡御するお旅所（「番場（ばんば）」とも呼ばれる）に松明の準備をする。



写真3 お旅所への道から見た白山神社



写真4 お旅所、左手に松明、右奥に目印となる大木と5台の神輿を置く石の台座が見える

9月16日の宵宮は夜10時から始まる。神輿渡御を行うためには、神社で祀る神の御霊（おみたま）を霊代（みたましろ）に乗り移らせて、それを神輿に載せることが必要だが、御霊を霊代に移すのは神社本殿でしなければならない。ところがここ白山神社の本殿は拝殿から高い石段を登った奥にあり、神事の最中にそれを行うのは行事運行に差し障るということで、宵宮の日の昼前に、当親の「招待（しょうだい）」で神装束をまとった宮司が霊代となる辛櫃（からひつ）をもって本殿に上がり、神降ろしをして御霊を移し、拝殿に置かれている神輿まで運んでおく。本来なら神事が始まってから神降ろしをするのが手順だが、建物の配置と神事の時間帯の関係でやむを

得ない措置と堀内宮司は言う。

白山神社には5社が合併され、神輿も5台あるので、堀内宮司のほか、近在の4人の宮司に毎年来て手伝ってもらっている。拝殿での神事では笛や太鼓などの役割を分担し、神輿渡御ではそれぞれの神輿にひとりづつ宮司が責任者としてつき、神輿を先導する。

午後10時頃には境内の拝殿前にキリコが横一列に並んで置かれている。2015年度は合計3台のキリコが出た。中央は当組の地区のキリコである。かつてはそれぞれの地区でキリコを組み立てて神社まで運んで来たが、人足が不足するようになった近年は、境内で組み立てる地区も多い。まず宮司がキリコのお祓いをしてから拝殿に入り、神降ろしをし、祝詞(のりと)をあげたあと、神輿を外に出して渡御に移る。当組のキリコが5台の神輿を先導し、残りふたつのキリコがそのあとに続く。行列は、神社正面を東にまっすぐ300メートルほど行った町野川手前のお旅所に向かう。蠟燭の灯されたキリコは揺らされることなくそろそろと進む。

お旅所では用意された大松明にすでに火がつけられている。その火の粉を浴びるようにして、



写真5 拝殿内での神事



写真6 お旅所へ向かうキリコと神輿



写真7 松明の脇をとお旅所に入る



写真8 神輿の前に神事を行う

キリコと神輿の行列は、お旅所の広場に入り、目印となる大木を右回りに1回回ったあと、5台の神輿が大木前に並べて安置される。5人の宮司が神輿に向かって並んで座り、その後ろに氏子総代ら地区役員が座る。本務宮司の堀内宮司が祝詞をあげてから、宮司と役員はスルメとお神酒で直会（なおい）を行う。神事終了後、ふたたび神社境内に戻り、神輿を拝殿に納めてこの日の行事は終了する。

続く9月17日は本祭りの日である。この日は午後2時頃から拝殿で神事を開始し、2時半頃から神輿渡御に移る。お旅所での神事を終えた後、4時頃には拝殿に戻って、祭り終了の神事を行う。そのあとすぐに拝殿で直会を行い、次年度の当組に引き継ぐ当渡しを行う。それが済むと、役員だけが残って宮司とともに御霊を本殿まで運んで上がり、秋祭りは終了となる。なお氏子総代などはこのあと各地区に戻り、それぞれ「算定（さんじょう）」と呼ばれるあと祭りを行い、経費決算と反省会を催すのが通例である。

この祭りの日には、ヨバレと呼ばれる接待の慣行があり、氏子の家々ではごちそうを用意して訪れる人に振る舞う。かつてキリコを資産家が個人で出していた時分には、そうした家でヨバレた人々がキリコ担ぎに駆り出されたという。過疎化が進んでキリコの本数が減り、神輿にも台車がつけられて引かれるようになった。しかし宇柳田地区最大の行事として、2日に渡る祭礼行事はキリコの運行とともに今でも維持されている。

3. 笹川の日枝神社とその祭礼

宇柳田の野田区の下手で町野側に南から合流する上町川の両岸が笹川区である。その合流点に向かって南から突き出したような丘陵の突端に位置するのが、笹川の氏神である日枝神社である。江戸時代の笹川地内には3つの宮があったが、明治になってから日枝神社に統合されたという。宮司は町野川下流の輪島市町野町内の徳成区の大瀧宮司が務める。

笹川は現在も71戸からなる大きな集落で、区内が7つの班に分けられているが、祭りの運営を担う組は溜水（たみしゃ／たむしゃ）、二又島（ふたまたじま）、家中（いえなか）の3つに分けられる。溜水組は神社から東にのびる丘陵部に位置する家々で構成され、上溜水班と三平坂班がこれに属する。二又島組は上町川と町野側の合流点から神社下までの上町川両岸に位置する家々が含まれ、二又島班と橋向（はしむかい）班が属する。家中組はそれより上流の上町川両岸の家々からなり、山下班、川辺班、さらに上町川に西から流れ込む支流を遡った谷間の余井（よのい）班が属する。日枝神社の春・夏・秋祭りの運行を担当する祭り当番は、家中組（2015年度の当番）から溜水組、そして二又島組へと毎年受け渡されていく。

日枝神社の定期祭礼は春、夏、秋の3回行われる。

春祭りは「ゆのはな祭り」と呼ばれ、4月20日前後に、宮司と日程を相談して決める。この地方の各所でよく見られる「湯立て神事」が行われる祭りで、神輿が出され、神社南方の丘陵部にあるお旅所に渡御する。このときに、新しく笹川に嫁に来た新嫁が着物姿で氏神に参る「ゲンゾ参り」が行われることが多い。



写真9 丘陵の突端の上に建つ日枝神社

夏まつりは7月13・14日の二日かけて行われる。13日は宵宮で、夜キリコが出さ

れて神輿渡御が行われる。キリコは戦後しばらくのいちばん人手が多かったときには、3組それぞれが出す3本のほかに、若者が担ぐ大きな若い衆キリコと、子供が担ぐ子供キリコの計5本が出ていた。その頃はキリコは各組で組み立てられて、夜10時までに神社前の石段下に並ぶ。それから宵宮の神事が始まり、神輿が出されて石段を下り、キリコの先導で神社の西側の坂道を担がれて登り、神社後方のお旅所まで渡御する。お旅所で神事が行われたあと、ふたたび神社に戻ってこの日の祭事は終わりとなる。この晩は家々でヨバレが盛大に行われ賑わった。人手不足が深刻になった現在では、キリコは当組が出す1本と子供キリコのみで、しかも組のキリコはあらかじめお旅所で組み立てられて火が灯されるだけで担がれず、また神輿も石段を下りずに神社からそのまま裏手のお旅所に向かい、巡行するのは子供キリコだけになっている。

14日は本祭りで、昼すぎに神輿渡御が行われる。午後3時頃に神輿が出てそのまま裏手のお旅所に渡御し、お参りが終わったら宮に戻って夏祭りは終了する。20年ほど前までは神輿が石段を下りて町中を巡り、子供が生まれたり嫁をもらったりした家や、資産家（オヤッサマ）の家に寄ってお祓いをし、酒や肴が振る舞われた。この夏祭りにゲンゾ参りをする家もあった。

翌15日には当渡しが行われ、本年度の当組から次年度の当組へ当番を引き継ぐ。当番の務めを終えた組では、当番班の班長宅に集まり、収支報告をして宴会をもつ。これを「算用酒（さんによぎけ）」と言う。

秋に行うのは11月27日の新嘗祭で、神事のみを行い、ゲンゾ参りなどはない。日程は宮司の都合で、他の神社での行事と重ならないように調整している。

4. 石井の諏訪神社・市姫神社とその祭礼

町野川と上町川の合流点から北へ向かう下流側の左岸、柳田地区の野田区とは低い丘陵で隔られた場所に位置するのが石井区である。中世にはこの辺りで中心的な町だったという。氏神社



写真10 諏訪神社と脇の街道、右は光栄寺



写真11 市姫神社

である諏訪神社は、石井区と柳田の野田区を分かち丘陵南端の森を背に、北へ延びる街道を見通すように鎮座している。明治になって、区内の東はずれ近くにあった火宮神社を合併したが、火宮神社の社屋は今もあり、諏訪神社と火宮神社の神輿の保管場所として使われているほか、諏訪神社の夏祭りの際の神輿渡御のお旅所となっている。また諏訪神社前から街道を150メートルほど北進した左手に市姫神社がある。宮司は笹川区と同様、町野町徳成区在の宮司が務めている。

石井も大きな集落で、現在の戸数は76を数える。区内は6つの班に分かれるが、この班が毎年交代で祭りの当番を務める。これはかつての祭りの当組を引き継ぐもので、かつては区内に中組、寺地組、高町組、下町組、本町組と呼ばれる組があつて、祭りの当組を交代で受け持っていた。現在の班分けはほぼこの祭り組の区分を踏襲している。

石井区の主な定期祭礼は、諏訪神社の春と夏の祭り、そして市姫神社の夏祭りである。

4月28日に行われる春祭りは「ゆのはな祭り」と呼ばれ、湯立て神事を行い、病気を払う祭りとされる。諏訪神社の拝殿前に竹竿を4本立てて、左巻きに燃った藁に垂（しで）を下げたものを竹竿に渡して結界を結び、中に石でかまどを作って釜でお湯を沸かす。午後2時頃から神事は始まり、釜で湧かしたお湯に、シトギ（生米を洗って少しつぶしたもの）をつけた笹の葉を浸し、それを使って宮司がお祓いをする。昔はそのお湯で目を拭ったり、またその笹の葉を牛に食べさせたりすることもあったという。

夏祭りは7月26日の宵祭りと翌27日の本祭りからなる。諏訪神社と火宮神社の神を乗せる神輿2台のほか、キリコが出され、家々ではヨバレが行われて賑わう日である。

宵祭りの日は、夕方6時頃から家々はヨバレの客とそのもてなしで賑わう。神事は夜10時頃から始まり、2台の神輿とキリコが諏訪神社に集まる。拝殿での神事のあと、キリコに先導された神輿はお旅所である火宮神社まで渡御する。火宮神社の社殿を右回りにひと回りしたあと、社殿前に安置した神輿に向かって神事を行う。そのあとふたたび諏訪神社に戻って神事を行い、宵祭り

が終了する。

キリコはかつては祭り組がそれぞれひとつずつ出したほか、大きな若い衆キリコや小振りな子供キリコなどがいくつもあり、最盛期には20本以上出たこともあったという。現在まで残る若い衆キリコは文化文政年間に作られたものがもととなったもので、少し傷んだ状態で諏訪神社の社殿裏手の倉庫に保管してあるという。祭り組のキリコの多くは、担ぎ手が少なくなると、和倉の石崎などに売られてしまい、今では高さ3間半の小振りなキリコが2本残るのみで、近年はこの小振りなキリコを1本だけ出すことが多い。このキリコもふだんは若い衆キリコと同じ場所に保管されている。

翌27日は本祭りで、午後2時頃から諏訪神社で始まり、神事のあと、前夜と同じように神輿が渡御する。このとき石井ではキリコも出されて、前夜と同じように明りを灯されて神輿を先導する。キリコは前の晩にお旅所からもどったら、そのまま神社境内に立てておかれ、本祭りにも使われるのである。お旅所から戻って神事を行って夏祭りは終了し、その後当渡しが行われる。神輿を箱に収める手順などがとくにいていねいに確認され引き継がれるそうだ。

8月16日に市姫神社で行われる市姫祭りは、商売の神様として、主に商店を対象にした祭りである。市姫神社の神輿のほか、たくさんの子供キリコが出される。キリコはふすま一枚ほどの小さなもので、子供たちが用意し、神輿について回ってご祝儀をもらう。

祭りは夕方4時頃から始まり、市姫神社を出た神輿はまず諏訪神社に寄ったあと、神社脇の坂を降りて、石井区と柳田の野田区との接点を流れる町野川にかかる石井橋に向かう。橋の上で町野川のお祓いをしたあと、野田区の商店街や石井区の商店街を巡行する。申し出た商店に神輿が立ち寄ってお祓いをして回る。市姫神社に戻るころには夜遅くになっている。

これらのほか石井では、1月1日の初参り、3月2日の祈年祭、11月23日の新嘗祭が催される。初参りは区で紅白の鏡餅やお神酒を用意する程度だが、祈年祭と新嘗祭は祭り当番がお供えを準備して宮司が神事を行う。新嫁が参るゲンゾ参りや、初孫が生まれたときに祖父母、父母、初孫がそろってお参りする「初孫参り」は、3月2日の祈年祭のときによく行われてきた。また初老（シヨロウ、数え42歳の男の厄年）のお祓いや還暦の祝いは新嘗祭の時にあわせてすることが多い。ただいずれももっぱら男性のみが行ってきたという。

5. おわりに

各地区に建てられた神社だけでなく、そこで執り行われてきた定期祭礼もまた、固有の由緒来歴をもつ伝統行事であり、この地区で暮らす人びとの生活に深く織り込まれてきた。その内容や意義はとてもここで見たような概観で尽くせるものではない。祭礼行事の実態を把握するためには、何よりも実際に見てみることが不可欠だが、今回実際に見ることのできた部分はほんのわず

かで、多くは地区の方々からの聞き取りに頼って記述した。断片的で舌足らずな紹介に終わっていることは言うまでもなく、知識不足による誤りがないことを祈るばかりだが、今年度聞き取りを行った旧柳田村の字柳田地区、字笹川地区、字石井地区もまた、ここで紹介したようなそれぞれ個性ある神社祭礼を継承してきた地域であり、その個性の一端が表現できていれば幸いである。

注： 文中にはいずれも筆者が2015年9月16日に撮影した写真を使用した。